

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075000168		
法人名	有限会社 日新商会		
事業所名	グループホーム みずまき		
所在地	〒807-0046 福岡県遠賀郡水巻町吉田西3丁目15番11号 TEL 093-202-8142		
自己評価作成日	令和03年10月06日	評価結果確定日	令和03年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前の系列病院による24時間健康管理体制が出来ている。また、系列病院による月2回の訪問診療も行っています。職員全体のチームワークがよく、家族との関係も良好でいつも笑い声が絶えないグループホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年11月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みずまき」は、母体医療法人が地域からの要望に応える形で20年前に開設した定員9名のグループホームである。JR駅や中学校、コンビニエンスストアが近い利便性の良い住宅地の中に位置する民家改造型のアットホームな雰囲気の事業所で、コロナ禍以前は頻りに面会に訪れる家族も多かった。(現在はコロナ対策の為、玄関のガラス越し面会である。)道を挟んだ向かいにある母体医療機関の看護師や栄養士、理学療法士、作業療法士と連携し、利用者の安心、安全な暮らしを支える体制が整っている。「グループホームみずまき便り」に手紙を添えて、利用者の暮らしぶりを家族に伝え、大変喜ばれている。働きやすい環境の中、開設時から勤めている管理者、ケアマネージャーを柱に長く勤める職員が定着して利用者との信頼関係を築き、利用者の幸せそうな笑顔に触れた家族から、「夢のよう」と感謝の言葉が寄せられている「グループホーム みずまき」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に寄り添うことを理念とし職員会議や研修時に復唱している。リビングに掲示しているので、いつでも確認でき、皆で取り組むようにしている。	職員間で話し合って作成した理念、「私たちはありのままのあなたに寄り添い、安心と安らぎのある生活を家族や地域と共に支えていきます」を見やすい場所に掲示し、常に目にすることで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出が殆どなく近隣の方とは挨拶程度である。コロナ前は子供神輿を施設の前で披露してもらい入所者も楽しまれていたが町内活動も自粛の為、あまり交流はなく回覧板の閲覧程度です。	町内会に加入し、コロナ禍以前は回覧板の閲覧で地域の行事や活動を把握し、近隣住民と出会った時は挨拶を交わし、リハビリや受診で訪れる母体医療機関では、地域の方と交流していた。毎年立ち寄り秋祭りの子供神輿は、利用者の楽しみとなっていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空き状況や入居希望等、相談をされる方に対しては、お電話で現在困っていることや心身の状態などを尋ねています。空床がない場合は他施設の紹介やアドバイスを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症予防のため行政・系列病院の看護師のみ参加、民生委員には書面で近況報告や事故報告など行相談や意見交換を行っています。	会議は2ヶ月毎に開催している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の為、母体医療機関看護師、行政職員の参加のみで行い、利用者の状況、行事、職員研修、人事、事故報告を行い、参加委員から出された意見をサービスの向上に活かしている。民生委員には書面で報告し、意見を聴いている。	コロナ収束後には、地域代表や元家族、関係のある専門職(薬剤師や歯科衛生士、司法書士等)に声を掛けて参加委員の増員に努め、情報提供を広く受け、出された意見をサービス向上に活かしていく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい情報交換やアドバイスを仰ぎ、わからない事があれば連絡・相談を行っている。	管理者は、行政担当窓口疑問点や困難事例の相談を行い、事故や空室状況を報告する等連携を図っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状や取り組みを伝え、助言や情報提供を受け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては施設の前が車の通行量が多い道路なので利用者の安全を重視し施錠している。転倒リスクの高い入所者については他者介助に同行介助を行い居室に離床センサーを設置し抑制や拘束など、しないように取り組んでいる。	身体拘束適正委員会を3ヶ月毎に開催し、事例検討を行いながら禁止となる行為や身体拘束が利用者及び弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、車の通りが多い道路に面しているため、利用者の安全を重視して玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修を行い身体的な虐待だけでなく言葉による心理的虐待・スピーチロックについても話し合っている。言葉が適切でない職員に対しては注意を促し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い個々の必要性について話し合っている。パンフレットを用意し利用者や家族が必要なときは制度を活用できるように説明を行っている。	権利擁護の制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には説明を行い、関係機関と相談しながら制度が活用できるよう支援している。成年後見制度を活用している利用者があるため、後見人とのやり取りの中で、制度について理解を深める事が出来ている。また、内部研修を実施し学ぶ機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい言葉や説明を心がけ疑問点を尋ねて理解してもらっている。退去時には十分に話し合い必要な支援を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は家族が来られた時に意見交換や要望の聞き取りを行っている。苦情相談窓口がわかりやすいようにポスターを掲示している。	利用料支払いの為、少なくとも月に1度は家族が来訪し、その機会に家族の意見や要望を聴き取っている。出された意見や要望は、ホーム運営や介護サービスに反映させている。月1回、「グループホームみずまき便り」に手紙を添えて家族に送付している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や就労の中で意見を聞く機会を設け良いものは取り入れ即時実行し業務提案があれば上司に相談している。	日常業務の中で、その日の出勤職員参加の職員会議を月1回開催し、身近な課題について話し合い、欠席者には事前に意見を聞いている。会議の内容は申し送りノートに記載して情報の共有に努めている。職員の気づきや疑問点は個別に主任や管理者に尋ね、利用者により良い介護サービスが提供出来るよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって就労することが出来るように資格手当があり、資格取得のための貸付や研修時の勤務調整など職場環境・整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して経験や資格・性別・年齢よりも働く意欲を重視している。職員が得意なことを生かせるように役割分担し能力が発揮できるように努めている。	職員の休憩室を整備し、合わせて1時間の休憩時間を確保している。経験の長い職員と新しい職員が、それぞれの持てる力を出し合って、助け合いながらチーム介護に取り組んでいる。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を重視している。	コロナ収束後は、定期的な勉強会の開催、外部研修の受講や資格取得の奨励等、職員のスキルアップに努め、職員が向上心を持って働き続けられる職場環境を整える事を期待したい。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念に取り組み、日々の就労の中で啓発に取り組んでいる。	運営理念に基づいた介護サービスを実践し、利用者のその人らしさを受け入れて寄り添い、安心と安らぎのある暮らしの支援に取り組んでいる。また、慣れからくる言葉遣いの乱れや声の大きさ、対応等、気づいた時には職員間で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の議事録を用いて皆に伝わるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設との交流を定期的に行いサービスの質を向上できるように取り組みを行っている。相談ごとなど他施設(地域のグループホーム)に連絡し意見を尋ねることもある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思の伝達ができる入所者には困っていることや不安なことなど引き出せるように傾聴し聞き取りが難しい方は家族を交えながら要望や心身の状況を尋ねるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安に思っていること・要望等を詳しく尋ね、力になれるように関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく尋ねた上で必要なサービスを提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の片付けや洗濯物たたみなど出来ることを一緒にやり、昔話や思い出話など会話を楽しみ日々の生活を送れるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はガラス越しでの面会しか行っていないが本人や家族が望むことを傾聴し共に支えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院への受診やリハビリ通院を継続している方に関しては、院内で顔見知りと会うこともある。	家族の面会や利用者の友人、知人の訪問があったが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為に控えている。家族からの電話を取り次いで話をしてもらったり、病院受診やリハビリ通院時に知り合いに会い話をする等、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合いそうな方同士を同じテーブル席にし、会話を楽しめるようにしている。レク時に皆で歌を歌ったり他テーブルの方とも共有する場面を多く持てるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は主に母体である病院への入院が多いので時々、面会に行ったり家族と会えば体調や様子を伺い支援に努めている。現在はコロナ禍で面会は禁止です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で内容や表情などを見て思いを引き出したり行動などの観察を行い希望に添えるように努めている。	ホームでの日常の関わりの中から、職員は、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有している。声が聞き取りにくい方が増え、意思の疎通が難しい利用者が増えているが、職員は利用者に優しく寄り添い話しかけ、その表情や仕草から利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接や入居時・面会時に家族に尋ね生活歴がわかるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で有する力を理解し能力に応じて活動が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活やケア・会話の中で課題を見つけたり家族の来訪時に日頃の様子を伝え情報交換をしている。身体状況の変化に合わせ介護計画の見直しを行っている。	職員は、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、利用者の状態に変化があれば、家族や主治医に相談し介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や実践記録をつけスタッフ全員が共有を行い介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や突発的な他院受診などその時々ニーズに対応し柔軟な支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医との連携やリハビリ通院が必要な方は病院から送迎があり安全に暮らせるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列病院をかかりつけ医とされている方が多く家族の負担軽減も含めて訪問診療や職員が受診を行っている。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。母体医療機関を主治医としている方が多く、訪問診療や職員の受診支援に加え、何かあれば母体病院の看護師に相談する等協力関係を築き、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していないので系列である病院の看護師に相談したり協力してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列病院で情報交換を密に行い早期退院に向けた支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置していないため終末期の看取りは行っておらず契約時に家族の承諾を得ている。医師の指示に従い出来る限り施設で暮らしていただいておりますが病状が悪化し施設での対応が困難な場合は入院となります。身体状態が重度化しても施設での生活が可能な場合は医療と連携し支援に取り組んでいます。	重度化や終末期に向けた方針について、契約時に利用者や家族に説明し承諾を得ている。ホームで看取りは実施していないが、利用者の重度化に対応して、家族や主治医と話し合いを重ねながら、関係者全員で今後の方針を共有し、出来る限りホームで暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応や応急手当の訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施し特に夜間を想定した訓練を行うようにしている。ホーム前の系列病院との協力体制が出来ている。	防災自主訓練を年2回実施している。通報装置を押すと消防署と母体医療法人に自動通知され、病院から応援の職員が駆けつけて、利用者の見守りができる体制が整っている。また、遠賀川が近いので、津波発生時の避難経路の確認も行っている。災害時に備え、飲料水、非常食、カセットコンロ等の準備を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の際トイレの戸を開けたままにしない、否定や強制するような言葉は避け同調するような声掛けを心がけている。	利用者のプライバシーを尊重する介護について職員間で話し合い、利用者一人ひとりを尊重した言葉掛けや対応を心掛け、居室でテレビを見たり、横になったり、その方らしく自由に過ごせるよう支援している。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しますか?」「どうします?」など、問いかけを行い自己決定が出来るように働きかけや声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活できるよう職員の都合を押し付けず過ごせるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用しているが毎回、同じ美容師が来られ馴染みの関係を作りながら希望に沿うようにカットしてもらっている。髪を切りたくないなど毎回確認し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりに合わせた形態での食事提供を行い食後の食器拭きやお膳拭きなど個々の能力に合わせ見守りながら力が発揮できるようにしている。	人手不足とコロナ禍での衛生面なども考えて、現在は母体医療機関の厨房で作ってもらい、それを利用者一人ひとりの状態に合わせてつぶしたり、刻んだりして提供している。汁物やお粥等はホームで作っている。利用者の力に応じて、食事の後の茶碗拭きをお願いしている。	コロナ収束後は、簡単な作業で出来るおやつ作りや、少人数や個別で外食に出かける等、食べる事を楽しめるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の栄養士作成による献立を提供。個々の状態や本人希望などに応じて水分量不足にならないよう工夫している。塩分制限のある方に関しては家族や主治医と相談しながら食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・夕食後の義歯預かりなど利用者一人ひとりに合わせ磨き残しがないように口腔ケアを実施し歯科受診が必要な場合は、訪問歯科を利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が多い方でも立位が可能な方は日中、トイレ誘導を行い排泄パターンを把握しながら失禁を軽減できるように支援している。	利用者が重度化しても出来るだけトイレ誘導を行っている。職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、オムツ使用の方も日中はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間は、本人の希望や状態に合わせてポータブルトイレや離床センターを用いながら柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	系列病院と同じ献立を提供。水分摂取管理を行い便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めて対応しているが利用者の状況や本人の要望に合わせ、入りたくないと言われる場合は他の日に変更を行ったり時間をずらしたりして、入浴支援を行っている。	入浴は、5人と4人に分かれて、月火木金で行い、基本的には週2回の入浴となっている。職員2人介助でリフトを使って入浴している方も多く、浴槽に安全に浸かる事が出来ている。入浴を拒まれる利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて就寝時間を設定したり、室温調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を確認し用法や副作用についても理解できるようにしている。変化の兆候を見逃さないように努め処方や服薬の有無を個人ファイルに綴じ確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食後の食器拭き等、自ら率先して楽しまれている方や本希望のおやつや飲み物を購入するなど一人ひとりに合ったサービスを心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化が進み殆どの方が車椅子を使用している。コロナ禍で家族との面会もガラス越しでしか行っておらず外出は殆ど出来なかった。	新型コロナ感染症対策の為、外出は自粛しているが、道を挟んだ母体医療機関の受診は利用者の気分転換になっている。向かいの病院の敷地内の桜や花壇の花を眺める等、今できる範囲での外出を支援している。	コロナ収束後は、近隣のコンビニエンスストアに買い物に出かけたり、個別でドライブや外出に出かける等、利用者一人ひとりの状態に合わせた外出への取り組みを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭所持は行っていない。持っていないと不安な方に対しては家族と相談の上、小銭程度を所持出来るようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族が希望されれば電話を取り次いだり手紙の受け渡しも行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓やカーテンの開閉を採光の具合を見ながら行い居間には日めくりカレンダーを掛けている。利用者にとって適温になるよう室温に気を付けている。季節がわかるように壁に飾りや貼り絵をしている。	民家改造型の家庭的な雰囲気のある事業所である。音や照明、温度や湿度、換気に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。室内には、季節感のある掲示物や季節の生花を飾り、アットホームで温かみのある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体状況や相性なども考慮し居場所として過せるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に応じて家具の配置を工夫したり使い慣れたものや好みの物を置き心地良く過せるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具やお位牌や家族の写真、身の回りの物等を持ち込んでもらい、ガラス戸棚の中に昔の人形を並べて飾る等、家にいるような環境作りを心掛け、安心して過ごせるように配慮している。また、転倒の危険がある方は床の上にマットを敷く等、一人ひとりの状態に合わせた環境整備に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口や居室入り口に目印を付け、わかるように工夫している。		